

生活ケア分野

水により取り戻される生態系のバランスと循環

今日、日本では多くの水製品が騒がれ、またさらなる新しい水として、日々多様な水が現れてきている。

これらの中で、生命体に一番良いとされ生体水に近いもの、また生体水と同じものとはどのような水だろうか。まずは、生体水の不思議を解く必要性があるのでは。

CONTENTS : さまざまな分野への応用

生活ケア分野

「生体水」を解読していくと答はすぐ得られる

生体内のものはすべて生体水の水の器で包まれ運ばれている。

一切の電位を持たない中性の水。

多少の電位により崩れる水ではない。

化粧品 スキンケア

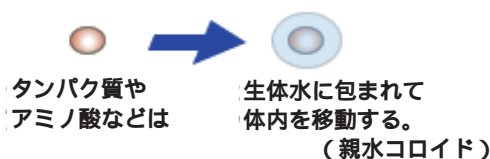
人の皮膚細胞

美肌・美身体探求

「生体水」を解読していくと答はすぐ得られる。

生体内のものはすべて生体水の
水の器で包まれて運ばれている。

イメージ図



生体内では、タンパク質やアミノ酸が水で包まれ運ばれていることがわかってきている。そして、水が物質を包む作用(親水コロイド状態)がおきないとされる疎水コロイドも、超微粒子化された水・生体水の世界では包まれ、この崩れることのない水の運搬力で全身に運ばれている。粒が揃い活力ある生体水の世界では、異物はすべて水の器に包まれ害を及ぼさず、排尿や汗として排泄されている。健康な生体水の世界では、環境ホルモンと呼ばれている物質さえ、ほとんどのものが異物として排泄されるようである。

なぜ同条件の生活の中、これらにより病を引き起こす人と引き起こさない人がいるのだろうか。

病を起こさない人とは、摂取した水を活力あふれる水に整えることのできる細胞力を持ち得る人である。また、この細胞のはたらき力は誕生から年月が経ていない、小さい子供ほど備わっていることが明らかになる。

細胞が行う最も精妙なはたらきで、エネルギー量を要する細胞分裂作用は、粒が揃った元気な生体水の環境がなければ正確には行えない。この細胞分裂が活発な時期とは、生体水が元気であることを意味する。この時期、反応速度やその正確さを助ける、重要な役割の水が衰えていたり、これを阻害する化学物質の存在により、脳や各臓器の重要な細胞群の配列にばらつきが生じる。

今日、増加傾向にある身体の障害や疾患を持つ子供達の存在は、この生体水の活力・運動力の衰えが最大の原因となっている。

大人より弱いと考えられている子供達、特に幼児について、ある意味では大人を遙かに越える代謝・排出システムが備わっていることが最近になり、医学面でも語られつつある。細胞の異物の検知能力、そしてその排出能力の強さは大人を遙かに越えている。

女性の身体の中では、最も化学物質がたまる部位の子宮で育った胎児のダイオキシン保有率は、母体の20%程度である。そして今日、アトピー症で悩む幼児の増加傾向が聞かれているが、これは母体から引き継いだ化学物質の排泄により、皮膚表皮でその物質と紫外線が反応し、強酸性物質を生成しているとも大いに考えられる。これも結果として現れている症状のみを見ると弱い子と見られがちだが、これは早く異物を排出しようとした細胞のはたらきによるものである。

一切の電位を持たない中性の水。

本来の生体水は一切の電位を持たず中性である。大気に触れる皮膚表皮や、鼻・目・口内～食道までの粘膜細胞は弱酸性、胃液においては強酸性になっているが、これらはその部位の生体水が酸性やアルカリ性になっている訳ではない。これらは、菌類の異常増殖や消化システムに対応した、アミノ酸やヘモグロビン類の存在によっている。

また、酸性化された水環境の中では、アミノ酸類はそのはたらきができなくなることを知っているだろうか。

実験である種のアミノ酸は、弱酸性や弱アルカリ性の環境ではたらくとあるが、これらはあくまでも体外で人工的に作られた水環境中での実験であり、その生態システムを示すものではない。

このことは、水素Hや水酸基OHとアミノ酸との関わりを明確にしていけばわかりやすい。その他の酸性物質が存在するとアミノ酸の成熟はなく、異なった物質(強酸性物質)を生成してしまう。酒の酵母菌や微生物の増殖時の環境を観察・研究してみると答えが見いだせる。0.02～0.04ph変化により、そのはたらきを失ってしまうのである。

多少の電位により崩れる水ではない。

この精妙な微粒子化された生体水の世界は、多少の電位差が与えられても容易に崩れる世界ではない。

すべての養分の吸収システムや異物の排泄システムがこの水の器によるものであることを考えると、この水の器の粒のばらつきにより発生する生態システムの崩壊は、その生命の死を意味する。

高電位を持った大きな岩石は私達の身近に存在している。これらに腰を下ろしただけで生体水が崩れることになっていれば、今日のこれだけ豊かな生態系生命体の存在はなかったであろう。

本来の健康な生体水は、磁気や電磁波で崩れることはない。そして、その影響を顕著に受け、病が生じることもないはずである。

化粧品 スキンケア

人の皮膚細胞

健康な皮膚表皮は、外部より順に角質層～顆粒層～有棘層～基底層があり、基底層の円柱細胞がたえず細胞分裂し続けて新しい細胞をつくり、表面につぎつぎと押し上げている。新しい細胞が顆粒層に到達するのに2週間、角質層にとどまるのが2週間、合計4週間を経て「あか」になりはがれ落ちている。

表皮の奥では、真皮細胞や皮下組織細胞がヘモグロビンやアミノ酸により成分調整され、表皮の健康状態を支えている。

化粧品類に多く含まれている界面活性剤(乳化剤)や保存料は表皮細胞にたまりやすく、さらに真皮細胞・皮下組織のアポクリン汗管や毛細血管細胞にも侵入し、細胞組織を酸性化させ衰えさせていくことになる。新しい化粧品を使用開始時に発生する肌のかさつきには(剥離した角質細胞)2種類ある。有棘細胞や基底細胞の細胞運動が活性化され、新しい細胞が老化した角質細胞を押し上げ、剥がれていく状態の肌本来の活性化によるものと、老化が進んでいない角質層が酸性化され、無理に剥がされていく、肌に合わせていない強い製品によるものがある。前者は、自然な代謝によるものでかさつきのみであり、後者は、ヒリヒリと痛みをとまなうものになる。

健康な素肌をよみがえらせるには、まず有棘細胞や基底細胞の活性化を促進させ、古い角質細胞を取り除くことにある。使用開始時に少々のかさつきがあっても、ある程度の細胞活性化が進み、皮膚細胞のローテーションが整うと、美しい毎日の素肌が見られるようになる。

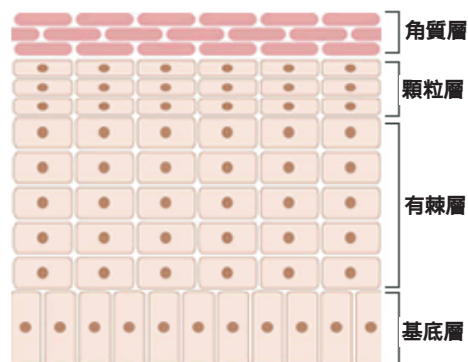
皮膚の細胞運動が極端に弱っている場合において、細胞運動の活性化により細胞が動きだすときに発熱し、赤みをとまなうことがある。このムズムズとした感覚をとまなう赤みは、数日で細胞運動の安定と同時にひいてくる。

化粧品を肌につけた直後に、「スベスベ」することは、細胞が水でうるおっている健康な肌本来の良い状態と、老化した角質層をも塗り込めてしまう、肌に負担をかけた状態のものがある。前者のものは、使用ごとに肌が活性化されていくので、使用を続ければ続けるほど美しい肌へと導いていかれる。後者のものは、使用当初スベスベ感があるが、肌に負担がかかっているため数ヶ月後にはこの使用感が劣り、使用者は自らの肌の衰えにより、肌に合わなくなったと思うことになる。

また、細胞レベルから判断できることは、好転反応とされるべき生態反応は、一箇処では長くて2週間であることも知る必要性がある。

本当に生命体細胞に良いものは、長期使用が可能で常に改善や安定をたどるものであると考えられる。

皮膚表皮 イメージ図



美肌・美身体探求

輝き透きとおる美しい素肌づくりは永遠の課題

この課題の究明は、化粧品メーカーにおいても、まだ解き明かされていない生態メカニズムの探求の必要性が感じられる。今日までに、アロエ・オリーブ油・スクワラン・シルク、様々なものが素肌づくりに語られてきた。

今日まで、それらのどの部分がどのように・・・いかにして美肌づくりに貢献するのか・・・ということをイメージ図として私達は宣伝媒体で目にしてきた。

そして、「バリアゾーン」という存在をいかにして、通過・浸透させられるかを現在もお、化粧品メーカーは開発のポイントとして苦戦している。

肌本来のはたらきに何が必要なのか、身体の細胞は何を求めているのか。

頭打ちをしている実務化学の世界も、ここで人の科学力を前提とせず、細胞自身に問いかけてみるべきである。

答えは明確に見えてくる。

すべては「水」を解くことで答えが湧き出てくる。

今日までに語られ、使用されてきた美肌づくり成分は、すべてその成分が肌細胞に必要な訳ではない。いかにして肌細胞に負担をかけずに肌を保水するか、いかに水をとどませるかの手段に過ぎない。

ひとつひとつを解説してみよう。

1. アロエなどの美肌有効性を語る植物エキス

- 1) ビタミンB2(リボフラビン)・ビタミンB12(コバラミン)・ビタミンB13(オロチン酸)*脂肪・炭水化物・タンパク質の代謝を助ける。
- 2) ビタミンE(トコフェロール) *酸化を防いで細胞の老化を遅らせる
- 3) ミネラル ヨウ素 *すべての細胞の代謝をコントロールする。

植物エキス内では上記の主要3要素が肌細胞に有効性を示す3大物質である。

上記3要素が植物内で十分に存在する植物には、その成分を安定させるために、他の成分も強いものが(多く)認められる。

これらの付随する成分は、肌細胞にとっては、代謝に大きなエネルギーを必要とするものが多く、たまり続けると細胞膜を傷め、害をおよぼすことになる。

単純に各種植物エキスを濃縮し、はたらきを強めるとこの相反する物質成分の存在により、結果的には肌には害をおよぼすことになる。

2. 人の肌の皮膚に最も近い「油成分」の搜索

オリーブ油・スクワラン・シルク・馬油など

精妙な人体細胞の構造から、生成される皮脂成分と全く同じ物質は、現代最新の化学力をもちいても創り出すことは不可能である。

自然・天然のものと考え、人の皮脂に近く精妙なものほど酸化しやすいものになる。

また、酸化しにくいものと考え、人の皮脂からは遠ざかることになる。

そして、異なる動物性油脂は異物として見地されやすく、植物エキスよりも入りにくく、皮膚の強固なバリアゾーンの通過が難点となり、いかにして、とどませるかに化学合成剤が必要とされるのである。

なぜ、人の肌を美しく整えるには、植物エキスが必要なのか……？ なぜ、油成分の補給が必要となるのか？

1. 前記にまとめた植物成分の有効性はなぜ？

最新の皮膚化学において、ケイ素Siの保有率が皮膚の保湿に大いに関係していることが研究で明らかになってきている。そして、研究論文発表からは、ケイ素Siが結合組織のムコ多糖類 タンパク質複合体に関係していることが示されている。

- 1) ケイ素は結合組織の構造的要素である。
- 2) ケイ素は人間の正常な発達にとって必須である。
- 3) 有機ケイ素は細胞代謝と分裂を正常化する。

ケイ素は生物学的架橋剤として機能し、結合組織の構築と弾力性に寄与していると結論づけられている。

3要素の植物成分の有効性は、この生物学的架橋剤といえるケイ素をいかにして、植物成分より肌細胞に取り入れるか・・・であったことがわかってくる。

ケイ素はある種のグルコサミノグリカンおよびポリウロニドの構造成分である。

多糖類マトリックスにしっかりと結合したケイ素が臍由来の純粋なヒアルロン酸、コンドロイチン4硫酸、デルマトン硫酸及びヘパラン硫酸中に検出されている。

多量の結合ケイ素(透析できない)がペクチン及びアルギン酸中に存在している。

そして、ケイ素は細胞増殖に対する細胞刺激剤及び細胞調整剤といえる。

Bリンパ球及びTリンパ球を活性化し、常に増殖しているリンパ芽球細胞増殖を阻害する。これらの観察結果を基にして、皮膚組織におけるケイ素の減少は、皮膚組織の破壊とその結果起こる皮膚の老化と密接に関係しているとの結論に達している。【参考文献：フレグランスジャーナル2000/11月号から】

私達の研究開発において、生体水を整えることで水に活力を与え、安定させることができる最も優れた物質は、純度の高いケイ素Siであることが実験的に明らかになってきた。

また、今日最先端テクノロジーの研究者の中で水中のケイ素Siの存在が水の安定性に大きく寄与していることが語られ出されている。

生物学的架橋剤といえるケイ素の存在により、H₂O水分子が安定することで、物質成分の酸化現象が防がれていることも明らかになってくる。

2. 油成分補給がなぜ有効なのか。

これは各化粧品開発社では明確にされ、答えを持っている。
いかにして、肌に負担をかけずに油被膜をつくり、“保水”させるか・・・ということにつきる。
ここでも“水”なのである。
最新の細胞学では、遺伝子(アミノ酸・タンパク質類すべて)さえも“水”の存在がなければ、その機能を正確に発現し修復できないこともあきらかになっている。

結論として

バリアゾーンを入れない=生体が必要としない

水の世界のみで、この肌細胞を潤わせ保水できることが可能になれば・・・。
そして、本来の“生体水に近い水”というものが存在するなら・・・。
生体に必要な物質は、すべて生体内で作られていることを知ることが、健康な生体を考える上で、最重要ポイントになる。生態システム構造は、良質な水の補給ですべては改善され、良質有効成分が体内で増産されるシステムになっている。
このことを熟知すれば、すべての皮膚化学を解決できることになるであろう。

注意：「肌に浸透性を示す水」の中には、強い電位差をもちいたものがあり、この水を使用し続けると、細胞膜破壊が起こり、ある時点から肌荒れをすることになる。
肌細胞に選ばれた水のみが肌表面から心地良く浸透でき、肌を潤わせることを可能とする。

保存料・添加剤を一切使用しない製品化を可能とする。
原材料のコストを削減する。

NO	開発製品名	特色・特長	現在の販売先 製品化進行状況	備考
1.	化粧品品質向上用	化粧品メーカーより開発を受託し、各製品の品質を向上させる。 酸化・劣化を防ぐ。使用感を良くする。 化粧品原料のコストを削減する。	化粧品メーカー	
2.	ヘアケアメーカーOEM	ヘアケアメーカーより開発を受託し、人工毛の縮れ毛を予防、良質な品質を維持させる。	開発を受託 ヘアケアメーカー	
3.	自社化粧品	表示成分やアルコール類を一切使用せず、優れた肌への浸透力を持たせることに成功し、肌の健康を改善させる。 基礎化粧品 アトピットリうおーたー プリスティーン ボディウォーター プリスティーン ボディウォーター しっとりタイプ エスケアウォーター 雪の水 浴用化粧品 プリスティーン バスウォーター あったかタイプ プリスティーン バスウォーター やわらかタイプ 頭髪用化粧品 セットうおーたー ヘアーうおーたー 生活ケア製品 あそぶうおーたー 白さのためのうおーたー	自社製品販売 OEM販売	